

## 第 2 回いわき市地域福祉計画策定委員会 議事録

1 開催日時： 平成 18 年 9 月 29 日（金）14：00～16：20

2 開催場所： 本庁舎 第 3 会議室

3 議事案件：

開 会

報告事項

「地域福祉懇談会」の開催結果について

協議事項

いわき市地域福祉計画（事務局案）について

その他

閉 会

4 発言内容等：

開 会

報告事項

「地域福祉懇談会」の開催結果について

委 員 長	はじめに、報告事項であるが、「地域福祉懇談会の開催結果について」事務局より説明をお願いします。
事 務 局	（資料 1 に基づき説明）
委 員 長	事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。
委 員 A	参考までに伺いたいのだが、いわき市のシンクタンクである「未来づくりセンター」が平成 12 年 1 月に「コミュニティづくりに関する町内会会長へのアンケート調査」を実施している。回答率が 85%であったとのことであるが、その調査結果の中で、「コミュニティとしてどんな活動に取り組んでいるか」といった項目に対する回答のベスト 3 として、「防災関係」、「青少年育成」、「高齢者福祉」を上げており、また「今後もこのような活動を継続していくべき」との回答が多く寄せられている。 その後、未来づくりセンターでこうした調査を実施しているのかどうか伺いたい。
事 務 局	その後は実施していない。 当時、調査に同意いただくのに非常に苦労したと聞き及んでい

	る。また、その際に、継続的な調査に対しては否定的な意見も寄せられたことなどもあり、その後は実施していない。
委員長	<p>いわきの状況の変化を確認するものであれば、毎年毎年といった追跡調査ではなく、10年ぐらいのスパンでその変化を見ていくのが適当な場合もある。</p> <p>今後の課題ではあるが、こうした調査結果等を総合的に把握し、データを一元管理するなかで計画づくりに活用できるものになってくれば、今回の地域福祉懇談会での意見もあわせて、さらに幅の広い計画案になっていくのではないかと考える。</p>

#### 協議事項

##### いわき市地域福祉計画（事務局案）について

委員長	<p>続いて、協議事項の「いわき市地域福祉計画（事務局案）について」であるが、効率的な議事の進行と、より集中的な議論となるよう、事務局案を章や項目で適宜分け、事務局から概要説明を受けた後に質疑応答を行うといった形で進めていくこととする。</p>
-----	--

##### 「本市が策定する地域福祉計画の方向性」

委員長	<p>それでは、はじめに『本市が策定する地域福祉計画の方向性』について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（資料2に基づき説明）</p>
委員長	<p>事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。</p>
各委員	<p>（質問・意見等なし）</p>
委員長	<p>一般市民が行政主導型になれてしまった。まさに、まちづくりの原点である「住民主体」という基本的な部分を社会教育の分野でもずっと取り組んできていることであるが、なかなか広がりを見せない。結果、行政依存の体質が続いてきている。</p> <p>一方、行政がこれまでの業務を継続していくのは、現在、人的にも財政的にも困難な状況となっている。もう一度、国全体の見直しの枠組みの中で、ネットワークづくりといった視点について市民が共通認識を持って、今後のまちづくり・地域福祉を推進していくということをこの方向性の中で示しているものと理解する。</p>

「第1章 計画の概要」・「第2章 地域福祉を取り巻く環境の動向と課題」・  
「第3章 計画の基本方針」

委員 長	次に、事務局案の『第1章 計画の概要』から『第3章 計画の基本方針』までを、事務局より一括して説明をお願いします。
事務局	(資料2に基づき説明)
委員 長	事務局からの説明に関して、まず「第1章」の内容に関して何か質問、意見等あれば発言をお願いします。
委員 B	資料P6の「計画の策定体制」についてであるが、第1回目の資料では事務局の下に「いわき市保健福祉行政連絡調整会議」という組織が記載されているが、今回の資料からはなくなっているがどうということか。
事務局	当該組織は、部内の課長補佐級の職員で構成する組織であり、当初はワーキンググループで議論した内容をさらに当該組織で検討していくことを予定していたが、屋上屋を重ねることはせず、「ワーキンググループ」と「庁内検討委員会」の二段階での検討が適切と判断したものである。
委員 長	その他、意見・質問等あればお願いします。
委員 C	ユニバーサルデザインについて、いわき市ではどの程度進んでいるのか伺いたい。
事務局	本市では、平成7年に「いわき市福祉のまちづくり整備指針」を策定し、これまで公共施設等のバリアフリー整備に取り組んできたところである。 ユニバーサルデザインに関しては、本年度中に本市の推進指針を策定すべく、現在内部検討を進めている状況である。
委員 長	まず全庁的に指針をつくることで、その後、関係部署がその指針を念頭において、短期的あるいは中・長期的な計画の中で事業を展開していくことになるものと考えて。 他に、意見・質問等あればお願いします。
委員 C	地域福祉懇談会の中で、福祉関係者からも意見をいただいたということで、当初予定していた福祉団体との意見交換については実施しないとのことであるが、個人の意見と団体としての意見は違うものではないか。
事務局	今後、福祉団体の意見をどのような形で伺っていくかなど、内部で検討させていただきたい。
委員 長	計画期間を概ね5年としている点については、個人的には評価したい。なかには10年としているものもあるが、社会情勢の変化が激しいなかで、状況の変化を踏まえながら、計画の見直し等について柔軟に対応していく必要があるものと考えて。 次に「第2章」の内容に関して、何か意見・質問等あればお願いします。
委員 D	資料P8以降に示された本市の地域福祉の現状に関して、地域

	<p>の現状が分かるデータのほかに、行政が今どのような状況にあるのか、例えば人材面や財政面の状況などを分かりやすく示すデータがあれば、市民も地域福祉の必要性等について実感でき、理解がしやすくなるのではないか。</p>
委員 長	<p>市の現状がどのようになっているのかといった点を市民にアピールしていくことも必要かと考える。</p> <p>それでは「第3章」の内容に関して、何か意見・質問等願います。</p>
委員 B	<p>資料のP19・P20の計画の基本理念等について、書かれている内容、趣旨は理解できるのだが、誰が読んでも分かりやすい、もっと平易な表現にできないか。</p> <p>例えば、「コミュニティ力」や「地域力」といった言葉は専門的でなじみがないので、別な言葉に置き換えられないか。</p> <p>また、「マンパワー」という言葉は、男女共同参画の観点から、現在、民間ではほとんど使わなくなっている。その代わりに「ヒューマンリソース」という言葉が使われている。別な言葉に置き換えたほうが良い。</p>
委員 長	<p>文章の表現は分かりやすくしすぎることで、逆に内容があいまいになったりもするので、この辺は難しいところかと思う。</p> <p>コミュニティという言葉自体は、都市計画等の専門用語の中で定着してきているものと考え。そこに“力”が付くことで一般の市民には分かりにくいかもしれないが、その点を“地域力”という言葉で補足しているものである。</p> <p>言葉の置き換え等により、脈絡や全体的な方向性がぼやけてしまうことがあるので、その点は十分に注意しながら、事務局内部で再度検討していただきたい。</p> <p>また、「マンパワー」の表現については、別な言葉への置き換えが適当と考える。</p>

「第4章 地域福祉推進の施策の展開」基本目標1 地域を担う人づくり

委員 長	<p>次に、事務局案の『第4章 地域福祉推進の施策の展開』のうち、【基本目標1 地域を担う人づくり】について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料2に基づき説明)</p> <p>今回お示した事務局案では「現状」と「課題」の部分をそれぞれ分けて記載しているが、中には現状そのものが課題になっているものなどもあり、今回は「現状と課題」という形でお示しすることとしたい。</p>
委員 長	<p>事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。</p>

委員 A	<p>「向う三軒両隣」という表現があるが、現在はある意味で“死語”に近い状況となっている。一方、昭和20年代、30年代に生まれ育った者からは、非常に懐かしい響きがあるのも事実である。</p> <p>当時は地域のコミュニティがしっかりと機能していた時代で、地域の婦人会、青年会、子ども会など、地域での活動が活発に行われていた。地域の問題は、地域の人たちが知恵を出し合い、力を合わせて解決していく“解決力”があった。</p> <p>高度経済成長期に失ってしまった地域コミュニティを再生していくことが、現在の大きな命題であると考えます。</p> <p>そのために極めて重要になってくるのが、次代を担う子供たちをどう育てていくかである。国を愛する心を育てていく、それは、地域社会を愛する心を育て、家庭を愛する心を育てていくことである。そうした心が育っていけば、自ずと地域コミュニティは再生されていくのではないかと考える。</p> <p>そんな中で社会福祉協議会としては、学校との連携による福祉教育推進事業ということで「福祉協力校」を指定し、学校独自のプログラムで福祉教育に取り組んでもらっている。今後さらに事業の充実に努めていきたいと考えている。それが将来、ボランティア活動や住民福祉活動に活かされ、地域コミュニティを再生する大きな原動力になっていくのではないかと考える。</p>
委員 長	<p>「向う三軒両隣」という言葉は確かに古いもので、今の子供たちは分からないかもしれないが、あえてそれを使うかどうか、その辺も皆さんで議論していけば良いと思う。</p> <p>他に、意見・質問等あればお願いします。</p>
委員 E	<p>地域を担う人づくりは非常に大切である。</p> <p>私の暮らす地域は新興住宅地で、まさにこれから新しく地域をつくっていくところであるが、平成12年には社会福祉協議会の「小地域福祉活動事業」の指定を受けて、地域として高齢者福祉に力を入れて取り組んできた。地域の行事である「ふれあい祭り」は集会所を利用している各種サークル等の人たちの協力も得て開催しているもので、そこに地域の高齢者を招待したり、また、地元の保育所の子供たちに演奏会を開いてもらい交流を深めている。</p> <p>こうした行事はボランティアの方が中心に行っているが、最近では、その後継者がなかなかいなくて、活動を継続することが難しくなっているところもあるようである。</p> <p>こうした地域を担う人材を育成していくことは非常に大切であり、行政にも力を入れていただきたいと考える。</p> <p>また、資料P22の現状の中で、「行政嘱託員、民生児童委員、子ども会など…」との表現があるが、「老人会」も積極的に地域活動に貢献している団体であり、この中に明記してほしい。</p>
委員 F	<p>最近、特に、若い人達の個人主義が目立つように感じている。</p>

	<p>例えば、PTA活動などの中で、もう少し若いお母さん方を教育していく必要があるように思う。この辺をしっかりとしていかないと、生活の基本単位である家庭での問題も上手くいかないのではないか。</p>
委員 G	<p>自治会活動をもっと活性化していく必要がある。 そのことで地域の情報も多く集まってくるし、また地域の中で情報を共有することも可能になると考える。</p>
委員 H	<p>私の地区では、区長協議会と民生児童委員協議会が年一回、交流会を開いて地域の様々な事柄について話し合いを行っているが、その中で後継者づくりについても話し合われている。</p> <p>身の回りの小さな単位で自主的にボランティア活動が始まってきている。私自身も自宅を提供して“ふれあいサロン”を始めている。参加してくれる方は多いのだが、今後はいかに運営に協力してくれる人を集めて活動を継続していくかというのが課題である。こうした後継者の育成は大変重要であると感じている。</p> <p>今後、区長や民生児童委員や子ども会など地域の様々な団体が一堂に会して話合う機会を持つことが大切なのではないかと考える。</p>
委員 B	<p>資料のP29に関連して、ボランティア活動をやっている人が固定化している。市の市民生活課でも「ボランティア講座」などの取り組みを行っているところであるが、なかなか人が集まらないといった現状もある。こうした講座等の情報を必要としている人に確実に届けるための具体策も見えてこない、実際にボランティア活動をする人達の裾野はなかなか広がっていかないのではないかと思う。</p> <p>もう一点は、資料P31、P32の「ボランティア活動の育成・支援」についてであるが、ボランティア活動という言葉は、かなり広い意味で捉えられるもので言葉の定義の仕方にも関わってくるが、ここでは「ボランティアもしくはNPO活動」としてはどうか。</p>
委員長	<p>各委員の方から、いろいろな意見なり、現状なりをお話いただいたが、地域コミュニティの再生、相互連帯、相互扶助といった部分をもう一度確認し、つくり上げていくことが非常に重要である。この部分は計画のグランドデザイン的な部分で、それをどのようにアクションプログラムとしてまとめていくかが、計画の本来のところであろうと考える。</p> <p>また、今回の話し合いは、まちづくりといった視点からのものである、都市計画やあるいは教育関係の計画などにも非常に関連している内容が多く、そういった点も十分念頭におきながら話し合いを進めていく必要がある。</p>

基本目標2 地域を支えるネットワークづくり

委員長	次に、【基本目標2 地域を支えるネットワークづくり】について、事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料2に基づき説明)
委員長	事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。
委員 H	<p>私の地区では、現在3分の1の方が自治会に加入しておらず、そうした方の生活状況はほとんど把握できていないのが現状である。特にアパート住まいの方は、どんな人が住んでいるのかさえ把握できていない。</p> <p>今後、何か問題が起こったときに、迅速に適切に対応するためにも、自治会に加入していただきたいと考える。</p> <p>アパートの大家さんにも協力いただけないか。</p>
委員長	<p>地域住民の状況を把握することは、非常に基本的かつ重要なことであるが、一方で、個人情報、プライバシーの問題など福祉分野ではまさにこの点が、現実的に大きな壁・大きな課題となっている。</p> <p>地域ネットワークづくり、地域コミュニティの再生と言葉にするのは簡単であるが、実はこうした現状にあるのだということを再認識する必要がある。そして、こうした問題に行政がどこまで関与できるのか、行政が関与できない部分を地域の住民がどのように対応していくことができるのか。そうした点がまさに今後の大きな課題であると考えます。</p>
委員 A	<p>市社会福祉協議会では、現在、町内会といった小地域での住民福祉活動の推進に取り組んでいるところである。</p> <p>今後、本格的に地域福祉活動を進めていく上で、先ほど事務局の説明の中にも課題としてあがっているが、圏域設定をどうするのか、あるいは地域福祉を進める住民組織をどうするのが大きな課題だと考える。これらがしっかり根付いていけば、いわき市における福祉のまちづくりはどんどん進んでいくものと考えます。</p> <p>例えば、市内に「自治会・町内会」は645、「大字」で232、「小学校区」で74、「中学校区」で44、「民生児童委員の方部会」で35、市立「公民館」が36であるが、今後、どういう単位、圏域で地域福祉を進めていくのが適当なのか。</p> <p>社会福祉協議会では住民組織として「自治会・町内会」が一体となって進めていかなければならないと考えており、これからの本当に大きな課題ではないかと考えている。</p>
委員長	地域のネットワークづくりに関しては、委員の意見にもあり、大きな課題を含んでいる内容である。その点を上手く解決しながら、それぞれの地域で進めていかなければならない。

基本目標3 住民一人ひとりに対応した多様なサービスの仕組みづくり

委員長	次に、【基本目標3 住民一人ひとりに対応した多様なサービスの仕組みづくり】について、事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料2に基づき説明)
委員長	事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。
委員 C	市のホームページや広報紙だけでは、情報の入手が困難な人もいます。情報の提供方法等については、地域に住む高齢者や障がい者などにも十分な配慮が必要である。

基本目標4 日々の生活の場としての地域環境づくり

委員長	次に、【基本目標4 日々の生活の場としての地域環境づくり】について、事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料2に基づき説明)
委員長	事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。
委員 F	私の地区では、区画整理事業により空き地ができ、その後アパートが建築されているが、新たにアパートに入居する人には地主さんをお願いして、町内会への加入や、ゴミ処理の方法等について説明してもらっている。
委員 G	私の地区では、アパートの建設段階で、不動産業者等にアパート入居者に対する説明をお願いしているのですが、他の地区と比較すれば、自治会への加入は進んでいるのではないかと思います。 ただし、入居期間が短期であることなどを理由に加入しない方もいるが...
委員長	「交流の場づくり」ということであるが、まず、人と人が「出会い」、そこで「ふれあい」があり、そうした中から地域の連帯感や連帯意識といったものが生まれるものと考えます。 「ふれあいサロン」を実践しているとの話も出されたが、まさにこのことであろうと考えます。 「交流の場」を通じて、人々の「ふれあい」や「連帯意識」が醸成されていく流れだと思いますが、「交流」だけでなく「連帯」という表現も計画にうまく盛り込んでいただきたい。
委員 H	市内各地で「ふれあいサロン」の取り組みが広がってきているが、参加者はみんな以前よりも元気になっている。歩行上、杖と介助が必要だった人が、サロンに参加してから自力で歩けるようになった。サロンに参加いただくことで、高齢者が生きがいを感じ、またひきこもりの高齢者も減ってくるのではないかと考える。

	是非各地にもっと広げていきたいと考えるが、サロンを継続して運営していくための人材をいかに育成していくかや、サロンの会場についても「近所の空き家」を活用することができないかなど、今後の課題と考える。
委員 B	<p>ユニバーサルデザインについて、ハード・ソフトの両面から記載されているが、特に「心のユニバーサルデザイン」に関しては、内容も広く、なかなかその取り組みが難しい部分だと感じている。着実に推進されるような取り組みが必要であると考え。</p> <p>また、資料P56に、「情報難民」との表現があるが、少し語弊があるように感じる。例えば「緊急時等に正確な情報が伝わりにくく…」等の表現に置き換えてはどうか。</p> <p>さらに、資料P58の「情けは人のためならず」との言葉も、現在では本来の意味と違った解釈をしている人も多く、表現に工夫が必要であると考え。</p>

『第5章 計画の推進』

委員長	次に、事務局案「第5章 計画の推進」について、事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料2に基づき説明)
委員長	事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。
各委員	(意見・質問等なし)
委員長	それでは、最後に各委員から一言ずつ感想や意見等をいただいて本日のまとめとしたい。
委員 G	やはり自治会活動が重要であると考え。その中で、地域の情報の発信や収集が活発になされるものと考え。
委員 B	今回の会議に出席するにあたり、一緒に活動している他のメンバーとも意見交換を行ったが、その内容については概ね発言ができたと思う。
委員 I	<p>高齢者のサークル活動では、主に世間話や体操教室、お昼のお弁当などがあり、それを楽しみにしている高齢者も多い。</p> <p>地域で新たに高齢者のサークルを立ち上げたいということで相談を受けているが、その地区に全体的な“まとめ”がなければ立ち上げも運営もなかなか難しいと感じている。</p>
委員 E	<p>活動に参加する高齢者の中には、足腰が弱ってきて参加できなくなっている方もいる。</p> <p>自宅から集会所までそれほど遠いわけではないが、怪我や事故も心配であり、現在、ボランティアを募ってそうした方の送迎ができないか検討している。</p>

委員 C	市のホームページ等を十分活用できない高齢者や障がい者等もいることから、あらゆる人が必要な情報を確実に入手できるような情報提供の方法を考えていかなければならない。
委員 A	<p>現在市内では、「生き生きサロン」が70箇所、「子育てサロン」が13箇所を実施され、また防犯面でも「ワンワンパトロール隊」という組織を地域住民で組織し活動を始めている地区もある。</p> <p>こうした地域での支え合い活動がなければ、今後安全に安心して暮らしていくことは難しい時代を迎えている。</p> <p>地域の機運は高まってきている。今後、それを起爆剤にして、市内各地に広がっていけばと考える。</p>
委員 F	情報提供に関して、「書き方」が硬いため書かれていることを読んだだけでは内容が理解できないが、だれかが噛み砕いてそれを説明してくれれば十分理解できるといった高齢者等も、今後増えてくるのではないかと考える。そのあたりも今後の課題だと考える。
委員 J	<p>事業者としても、積極的に地域とのかかわりを持つことが重要である。地域の行事などにも施設の特性等を活かして協力していきたいと考える。そうしていくことで、逆に地域の方に理解いただける部分も出てくる。</p> <p>今後も「地域に開かれた施設づくり」を念頭に置いた運営を進めていきたいと考える。</p>
委員 D	授業以外はビデオやDVDばかり見る学生も、実はその中で“感動”の疑似体験を求めている。このパワーを内に向けてのではなく、まちづくりや福祉活動等につなげてくれればと考える。
委員 H	多くの市民の方に知ってもらうにはどうすればよいのか。改めて“口コミ”による情報伝達の重要性を感じている。
委員長	<p>最後に各委員から貴重な意見等をいただいたが、それらも含め本日の話合いの内容等を踏まえて、事務局案を修正し、次回の会議の中でさらに深めていきたいと考える。</p> <p>今後とも協力をお願いします。</p>

その他

次回策定委員会の開催日程と今後の事務スケジュールについて確認した。

閉 会

以 上